



大規模改修への第1歩、仮設棟に移転しました

院長 柳瀬 治



2018年10月15日、東大和療育センターは同じ敷地内に完成した仮設棟に移転しました。天候が心配されましたが、時々晴れ間が覗く曇り空のもと、当日入所されておられた利用者の搬送をはじめ、とどこおりなく無事に移転を進めることができました。これもひとえに移転に向けて周到な準備に励んでくだ

さった職員の皆様のご尽力と利用者・ご家族の皆様のご協力、ならびに東京都をはじめ関係機関の皆様の温かいご支援の賜物と感謝しております。

当センターは1992年の開設以来26年が経過し、老朽化した設備や使用勝手の悪い場所の全面的な改修、さらに医療法改正に従って利用者お一人当たりの床面積を広げるための病棟レイアウトの変更を目的として、この11月から大規模改修工事に着手します。工事が完了するまでの2年間、仮設棟においてこれまで通り事業を継続してまいります。

通所と二つの病棟が2階に配置されるなど利用者・ご家族の皆様にはご不便をおかけいたしますが、当センター一丸となって、利用者の皆様がより快適に過ごせますよう努力してまいりますので、ご支援・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



リハビリテーション科制作展 2018

リハビリテーション科 矢内裕子

リハビリテーション科の秋の恒例イベント「制作展」。今年は仮設棟への移転があり、例年より時期を早めて展示しました。皆さん、ご覧いただけただでしょうか。

紙粘土の感触を楽しみながら、オレンジ味、キウイ味など美味しそうなアイスバー。発砲スチロール球に造花を挿してフラワーボール。ちりめん布地を貼った和飾り。オープン粘土は手で握った形を活かして名刺入れやオブジェに。親御さんから展示が終わったら自宅に飾りたい、とお声かけいただいたり…作品を作ったご本人も作品を通して職員や色々な方から声をかけられて、励みになっているようでした。感想をお寄せいただいた皆さま、ありがとうございました。



今後も、利用者の皆さまと一緒に楽しい時間を過ごしていきたいと思います。



平成30年度 第44回日本重症心身障害学会学術集会

内容や視点に拡がり感じて…応援スタッフとして参加して

事務部企画係 山崎 治

第44回日本重症心身障害学会学術集会が、9月29日(木)・30日(金)の2日間、江戸川区のタワーホール船堀で開催されました。センターからも毎年、演題発表のほか多くの職員が参加しています。今年の学術集会は、東部療育センターの岩崎副院長が会長、事務局を東部療育センターが担当したため、当センターからも応援スタッフとして延べ約20名が参加いたしました。実は13年前、平成17年第31回大会は当時の平山義人院長が会長で、東大和が事務局を担当し平山院長、曾根先生等と開催準備や会場運営に奔走したことを懐かしく思い出しました。

今回、参加して気がついたことは、学会の目的とする「重症心身障害に関する学術・研究の進展とその知識の普及を図り、もって福祉の向上に寄与すること」が、当時と比べ格段にその内容や底辺が広がっていると感じたことです。当時の参加者は約600人、今回は約1,300人の参加で、発表者も重症児施設関係だけでなく、学生を含む医療・看護・福祉系大学の参加も多くなり、内容も在宅医療、家族支援、地域連携など視点の拡がりも感じました。



ポスターセッション会場

今回、応援スタッフと参加しながら私個人は体調管理が不十分で大会運営にご迷惑をおかけしてしまいましたが、大変に有意義な参加をさせていただきました。ありがとうございました。

多職種で命と暮らしを考える

リハビリテーション科 田中豊明

一般演題は口演、ポスター発表合わせて298演題、東大和からも8演題の発表がありました。その他、講演、教育セミナー、色々な企業のブースも設けられていました。今回は東部療育センターが中心となって運営を行ったこともあり、当センター職員も運営の手伝いを行いました。

この学術集会は「重症心身障害児(者)」をキーワードに医療、福祉、教育、行政など多職種の人々が集まり、「重症心身障害児(者)」の命と暮らしを考えることです。私も他の方の発表を聞くことで、改めて明日から利用者の方に関わるヒントを多く得ることができました。



企業ブース

東大和療育センターでの毎日は、学ぶことがとても多く深いと感じています。ご利用者様を中心として様々な職種の職員が総合的に療育する環境は、経歴～現在～未来を多方面から見据えて選択されています。また、工夫を凝らして企画された行事は種類が豊富で、ご利用者様の可能性を膨らませており、職員の知識と発想の豊かさに驚くことばかりです。

日々の業務で先輩方に追いつくことはまだできていませんが、ゆとりある接遇、観察する眼差し、的確な判断力、急変への迅速性など、少しずつでも確実に習得してご利用者様の生活を支えられる職員になりたいと願っています。

ご利用者様には、あらゆる場面でさまざまに接していただき、同じ事のない経験を積ませていただいています。そっと差し出された手にはどのような思いが込められているのか、その方の心の奥底を感じられるまでには至っていませんが、常に温かく声を掛けてくださるご家族や、そっと見守ってくださる先輩方に助けていただきながら、1日1日を大切にしていきます。ご利用者様は何十年と慣れ親しんだ病棟を離れて、秋から仮設棟での生活となります。不安な気持ちを少しでも取り除いていただき、安心安定した日々を一緒に築いていけたらと思います。これからもどうぞ宜しくお願い致します。(指導員 安部弓子)



Fresh

一年目の思い

理学療法士の学校に通っていた妻が実習先から帰宅すると、心配していた私の気持ちとは裏腹に『すごく実習が楽しい!』という言葉が返ってきました。これが東大和療育センターとの初めての出会いです。理由を聞いてみると『重度の障害をお持ちの方が、一生懸命に力強く生活しているの!それを支援する職員の方がみんな優しく、愛に溢れるケアをしているの!』と、とてもいい雰囲気なんだろうなと納得していると、続けて『指導の先生も筋肉ムッキムキで紳士な方で、すごく素敵なの!』と目を輝かせて教えてくれました。実習先に恵まれ、イキイキと実習に行く妻の姿に一安心していました。

そんな中私は社会福祉士を取得し、“資格を弱い立場に置かれている方の為に活かしたい”と思っていました。そんな思いが伝わったのか、ソーシャルワーカーの募集があると妻が教え、それから療育センターについて調べると、衝撃的な言葉と出会いました。『最も弱いものをひとりももれなく守る』 読んだ瞬間に『これだ!』と、資格を誰かのために活かしたいというイメージが具現化されたのです。重症心身障害についても、NPO難病のこども支援全国ネットワークの主催する活動に参加していたので『あの子たちの一生に寄り添えるんだ』と思い、気づけば応募書類を書き上げていました。

経験や知識がまだまだ少なく一人前とはいえませんので、日々学び頑張りたいと思います。皆様のご指導ご鞭撻の程、宜しくお願いいたします。(ソーシャルワーカー 松尾豪人)

入職してから半年が過ぎました。振り返ってみると、配属されてすぐの頃は1日も早く業務を覚えたい、利用者さんの状態を把握できるようになりたい、と焦っていたように思います。しかし、利用者さんそれぞれ個性があり、ケアや対応も違います。焦らず一人一人と関わっていくことで、少しずつコミュニケーションがとれるようになっていったと思います。「おはようございます」と挨拶をして、初めは私のことをみつめるだけだった方が、声に反応して発声して下さったり、顔をむけて笑顔を見せて下さったり、その反応一つ一つが心に残っています。利用者さんも、自分のことをみていたんだなと思います。私が焦っていれば、利用者さんも不安を感じ表情もこわばってしまいますが、私がじっくり落ち着いて関わりをもてば、自然と表情も豊かになり安心してもらえるのだと気付きました。

利用者さんは、自ら体調の変化や思いなど伝えることができない方が多いです。だからこそ普段の状態を知り、少しの変化も気付けるよう落ち着いて関わるのが大切であると思います。普段と違うというサインに気づいた時、全身状態を観察し、必要な情報を収集、アセスメントを行い、報告・連絡・相談できるよう正しい知識と技術を習得していきたいです。『利用者さんが望んでいることは何か、利用者さんにとってよりよい方法は何か』という利用者さん、そしてご家族の思いを尊重する視点を忘れず、より安心して心豊かに過ごしていただけるよう、日々努力していきたいと思います。(看護師 山本 幸)



今年度新入職員の皆さんに、一年目の思いを語っていただきました。その第一弾の4名です。

そこには、重症心身障害児(者)看護・療育・支援を志した動機や半年あまりの経験で感じた温かい思いが記されています。

そもそもなぜこの仕事を選んだのか、その原点だけはいつまでも忘れずに…。

私が看護師を目指すきっかけになったのは、息子が発達障害と診断を受け、療育センターに通院したことでした。診断を受けた時は息子の将来に不安を感じ、子どもとどのように向き合っていけばよいかかわからず、不安な日々を送っていました。そんな中、療育センターで、その特徴や関わり方について学び、その子に合った関わり方や、安心できる環境を整えることで成長や安心につながることを知りました。そして医療や看護に関心を持つようになりました。また、療育センターでたくさんの利用者様と出会い、障害を持っていても一生懸命生きようとし、それを支える家族や看護師の姿をみて、私も看護師になりたいと思うようになりました。

入職して初めのころは、利用者様とのコミュニケーションの取り方に難しさを感じ、利用者様が何を伝えようとしているのか、何を求めているのかわからず、先輩方に聞くことが多かったです。しかし利用者様に積極的に関わっていくうちに、少しずつですが、利用者様一人ひとりの個性やコミュニケーションの取り方がわかってきました。初めて利用者様の望みが理解でき、コミュニケーションが図れた時は非常に嬉しかったことを覚えています。入職して半年が経ち、日々の業務をこなすことに一生懸命になっていますが、その時の気持ちを忘れず、ご本人の意思を大切に、利用者様が尊厳を持って生活できるよう支援していきたいです。(看護師 森 敦子)

平成30年度 自衛消防審査会

チームワークが大切

生活支援科 紅林美穂

暑く日がまぶしい8月上旬、北多摩西部消防署で初めての練習が始まりました。慣れない足の動き、言葉や姿勢、審査会までどこまで理解し、通しでできるか不安になりました。消防署の方に細かく指導してもらうことで、最初は覚えるのに一生懸命、回数を重ねると自分の役割や今何をしなければならぬのかを身をもって感じ知りました。自主練習中は1番員の菅原さん、予備員の内藤さん、事務の仲村さんと動きについて、確認し話し合いました。そして9月11日(火)、野山北公園運動場で自衛消防審査会が実施されました。

当日の午前中に雨が降りましたが、午後は涼しく良い気候に恵まれました。入賞は逃しましたが、今までで一番いい動きだったように思います。迅速な動きで正確な情報を発信することで、初期対応が大切ということ学びました。また自分の役割を理解し、仲間とともに連携を図ることの大切さを自衛消防審査会を通して学び気づきました。サポートしてくださったみなさま、ありがとうございました。



チームワークばっちり

練習を通して一番のできにこみあげるものが

薬剤検査科 内藤 清

今年の練習は暑かったです。汗だくになりながら消防署内を動き回りました。メンバーは、指揮者に4棟紅林さん、1番員に1棟菅原さん、補欠員に私が選出されました。操法には消火器、消火栓の使用のほか、消防への連絡、館内放送なども盛り込まれています。練習では他施設隊の上手な動作(加点ポイント?)を取り入れたりもしました。

そして9月11日、本番を迎えました。2号消火栓の部は18隊が参加、6番目のスタート。本番直前、紅林さんの緊張はMAX、ムードメーカーの菅原さんも緊張してははずです。しかし、二人とも本番に強かった、声もはっきり聞こえていたし、規定通りの動きができていました。今までで最高な操法でした。戻る二人を迎えた時、補欠員の私、胸にこみあげるものがありました。自衛消防隊に参加して、防災意識を高めてみるのはいかがでしょうか。



本番に強い二人



応援の皆さんと…

意識が、心が、集中力が落ちて、汗が目にはみ、顔を上げろ、集中だ。両脚に虫がはしる、攣りそうだ。心拍180かよ、心不全にならないよな、何で好き好んでこんな事しているんだ、雨で中止になればいいのに、なるわけないよな。奥庭の登り。「頑張れ」声援が聞こえる心が持ち直す、「頑張ってるよ」声が出てしまう。ゴールには家族、先を走る友がいる。ペースを上げたい、まだ早い、この先は平坦路だ、力を残せ。ここからだ、あと5キロで25キロの登りは終わる。ペダルを回せ、時速40キロは超えたい、回れ脚、ゴールが見えた。腰を上げろ、ダンシングをするんだ、みんながいるゴールだ。両脚の大腿四頭筋、ハムストリング、下腿三頭筋、前脛骨筋、両脚全体が攣る、痛い、動けない。

みんなと話す、奥庭と山岳賞の坂はキツイよね。あ？楽しかったね？ あれ、そうだったかな？ スタートの山麓イベント会場に戻ろう。25キロの下り、油断すると時速70キロは軽く超える、ブレーキをかけ続ける、思うほど楽しくない、回収バスで降りたら楽しいかな。イベント会場に着いた、みんな揃った。よし、吉田うどんを食べよう、ん硬い、吉田うどんが美味しい。次はいつ登ろうかな、楽しみだな。(阿部 靖)



思うこと

感じること

伝えたいこと

My World

Vol.9

私は、平成4年のセンター開設時に就職しました。動機としては新設の施設であったことが一番ですが、ナイター付きのテニスコートにとっても魅力を感じました。実際は忙しくてあまりテニスができず、通勤時にコートを眺めるだけでしたが。

センターに来るまでは、テニスやスキーに時間を費やしていました。趣味と聞かれれば、スポーツと答えますが、ランニングは大嫌いです。中学生の頃はサッカーをやっていて、毎日ひたすら走らされました。昔は「走って、走って、どこまでも、いつまでも走る」というのが指導者たちのトレンドでしたから、付き合う方は大変でした。そんなこんなで「ただ走る」ことは、嫌いになりました。ただ、ボールを追って走ることは苦になりません。センターではサッカーや野球、卓球やバドミントンもやりました。プレイルームにはバドミントンのコートがあり、卓球台もありました。

仕事の後に汗を流したことが懐かしいです。今は大規模改修工事の影響で、テニスコートがなくなり、プレイルームを使用することもできず寂しい限りです。

最近の自分自身のトレンドは「ビリヤード」です。老後のボケ防止のために力を入れています、難しくてなかなか思い通りになりません。心が折れそうなことが多いですが、上達を実感できる間は続けていこうと思っています。誰か一緒にやりませんか。(久野木 昌黙)



仮設棟フォトギャラリー



正面玄関

駐車場からは歩行者・車椅子用通路をお通りください。車道は、たいへん危険です。



1階外来受付

受付の総合案内板で、行き先をご確認ください。行き先表示と同じ色の線に沿ってお進みください。



2階エレベーターホール

わずかですが、ご休憩いただけるスペースがあります。



病棟玄関

通路に面していますので、玄関扉は閉めさせていただきます。

編集後記

この広報が皆さんのお手元に届く頃は、引っ越しが終わりホッと一息…とはいかないですね。新しい環境で、しばらくは行きたい所までたどり着けずに迷い込んで、突然、関係のない部署にひょっこりはんしてたら、あたたかく迎えてください(笑)

さて、私事です…先日、生ゴミ処理機を購入しました。トリコロール柄で見た目もちょっとお洒落。嫌な匂いもおさらばで、家庭菜園の肥料にもってこいです。市の助成も得られますよ。ご興味のある方は是非!(Y・H)

『秋来ぬと目にはさやかに見えねども風の音にぞおどろかれぬる』秋になると思い出される一句です。夏の終わりはさみしいものですが、秋から冬にかけてフットボールシーズンの始まり、ハロウィン、クリスマスとだんだん寒くなるのも楽しめる季節となります。当センターでも10月から仮設棟での生活が始まりました。仮設棟でのこの2年間も、利用者さん、患者さん、ご家族、後見人さん、職員と季節の移り変わりが感じられるよう過ごせたらと思います。(ぶじかえるちゃん)



東大和療育センターホームページ

東大和療育センター

検索

そよ風 第94号

編集 院内報そよ風編集委員会

発行日 平成30年11月15日

発行 東京都立東大和療育センター

東京都東大和市桜が丘3-44-10

Tel 042-567-0222